

## 吹上町自治会(大分県日田市)

(構成：自治会内に福祉部会あり 見守りボランティア数：44名)

《活動主体の概要》

総人口：945人

高齢者数：(高齢化率 24.3%)

世帯数：370世帯

地理的構造：市内中心部から20km程はなれた個人住宅の多い地域

### 活動のきっかけ

平成23年8月、地域住民が安心して住み続けられるためのネットワークを作り上げるには、どうすればよいか、町内福祉部会の会議を開催し、『認知症について何か取り組む必要がある』という自治会の意見をまとめ、認知症支援体制づくり劇団「あやめ」の劇を住民対象に開催し、認知症の理解を深めた認知症予防教室「すずめの学校」を開校しました。

平成24年3月に日田市が実施した高齢者実態把握調査の報告や、大分県の防災士による地域防災研修を受け、自治会に自助意識が高まりつつある中、九州北部豪雨に見舞われ、行政の援助を待っている時間はないと気づき、まずは自分達の事は自分達でやらなければならないとの意識が生まれ、自治会内での防災の見直しや要援護者の把握を進めることで、自分の達の地域を自分達で守る「自助・互助意識」が根付きました。

### 活動方法

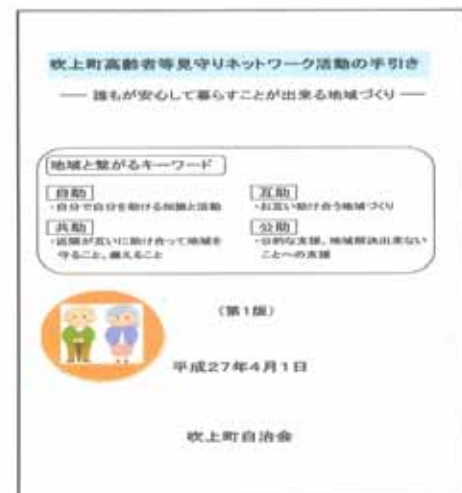
地域住民が、地域の方の異変に早期に気づくことが出来るようになるには、“地域住民自体が専門性を身に付けることが一番であると”の考えから、見守りボランティアの養成を行うこととしました。

年間4回の研修会とグループワークを行い、見守りボランティア養成講座も開催しました。

これにより、一般の方よりも専門的な目

を持つ見守りボランティアを地域の中に増やすことができました。

知識を身に付けた見守りボランティアが「郵便物が溜まっている」「洗濯物が干したままになっている」などの異変に注意しながら高齢者や障がい者等を見守っています。また、問題があった場合は、民生委員や自治会長などに繋がる仕組みも構築できています。



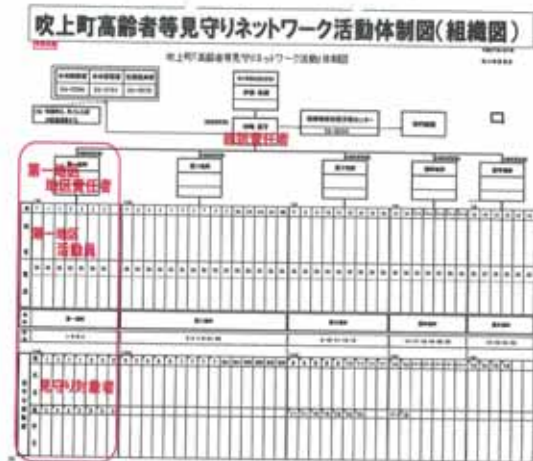
### 工夫点

自治会に新しい見守りボランティア組織を作ると分かりにくいので、見守りボランティア組織を自治会の既存の防災組織に取り入れました。

活動体制図(組織図)を5つの区域に分け、一番下が見守り対象者とし、見守りボランティアが異変に気づけば担当地区の福祉委員に繋がり、そして民生委員や自治会長に繋がる仕組みとし、第1段階で自治会内での解決を図り、第2段階での専門的

解決を必要とする場合は、包括支援センターに繋がる仕組みとなっています。

防災組織に見守りボランティア組織を組み込んだことで、住民同士の交流が生まれ、より強い組織となっています。



### 成果

この活動の特徴でもある、より専門性を持った「見守りボランティア」を町内で多く育成したことにより、地域の異変に気づき易くなり、早期発見へと繋がっています。

また、町内組織に見守りボランティア組織を取り入れたことで、より強固な組織ができ、問題が深刻化する前に早期発見が可能となりました。

消費者被害、虐待等の様々な問題にも対応できるネットワークとなったことで、この活動を通じて、他の地域のネットワーク構築へ繋がる第一歩となりました。

### 課題

今後も地域の中に気づきの目を増やす必要があり、毎年見守りボランティア養成を継続して行わなければなりません。

また、自治会単独でのネットワークでは見守りは十分ではないので、更にネットワークを広げていく必要があります。

そのために、校区の自治会・民生委員・福祉委員や地区社協等の福祉関係者に周知し、協力を得ながら活動を広げていく必要があり、更には地域住民を巻き込んで、

地域ニーズに沿ったネットワーク作りを進めていかなければなりません。

また、他の自治会や校区にも活動の周知や会議参加等を通じ、包括支援センターと連携を図りながらネットワーク作りを進め、市内全体での取り組みへと発展していくことが必要です。

### 代表者、事業者等の声



吹上町自治会長 伊藤 高樹

その人(見守られる人)が一人で悩んでいること、困っていることに気づき、その解決に向けて、皆で考え支えあう仕組みが出来る地域の見守りを通じて、「安心・安全・相互扶助」の絆が一層強化され、やがて来る未知の世界を共に支えることができると思っています。